速報版

Benesse® 教育研究開発センター
Benesse Educational Research and Development Center

第3回
子育て生活基本調査（幼児版）

幼稚園児・保育園児をもつ保護者を対象に

保護者の子育てやしつけに関する意識は、どのように変化しているのだろうか

Benesse教育研究開発センターでは、2008年９月に幼稚園・保育園に通っている子どもをもつ保護者6,131名からご協力いただき、家庭での子育て生活の実態、しつけや教育に関する意識をとらえることを目的に、調査を実施しました。今回の調査は、1997年、2003年に続き３回目となります。このように大規模で、かつ経年での比較ができる調査は少なく、保護者の子育てやしつけに関する意識と行動の変化を読み取る貴重な資料といえます。
この速報版では、2003年からの５年間の変化を中心に、いくつかのデータを抜粋してご紹介します。

調査概要

調査テーマ

幼稚園児・保育園児をもつ家庭での子育ての実態、およびしつけや教育に関する保護者の意識をとらえる

調査方法

幼稚園・保育園通しによる家庭での自記式質問紙調査

調査時期

第１回調査　1997年9月～ 10月
第２回調査　2003年9月～ 10月
第３回調査　2008年9月～ 10月

調査対象

【第１回調査（1997年調査）】
首都圏（東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県）の幼児（1991年4月2日～1994年4月1日生まれ）と小学校1、2年生をもつ保護者4,766名（配布数21,000通、回収率22.7%）。
※第１回調査は、任意郵送法により実施した。 第２回、第３回調査と調査方法が異なるため、今回の速報版では扱わない。

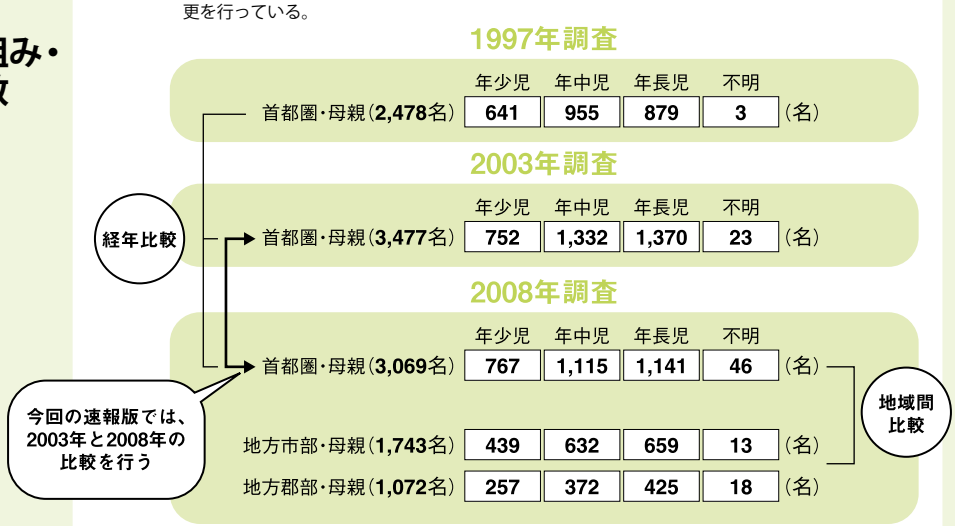
【第２回調査（2003年調査）】
首都圏（東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県）、地方都市（四国地方の県庁所在地）、郡部（東北地方）の幼稚園児・保育園児をもつ保護者4,471名（配布数6,121通、回収率73.0%）。
※このうち、分析は首都圏の母親（3,477名）のデータを用いた。

【第３回調査（2008年調査）】
首都圏（東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県）、地方市部、地方郡部の幼稚園児・保育園児をもつ保護者6,131名（配布数8,238通、回収率74.4%）。
※このうち、分析は首都圏の母親（3,069名）を中心に行った。
※地方市部・母親（1,743名）、地方郡部・母親（1,072名）のデータは、地域間比較を行う際に用いた。
※地方市部と地方郡部の幼稚園・保育園は、市区町村の人口規模、および人口密度を考慮した有意抽出法により抽出した。第２回調査の地方データとは抽出方法が異なるため比較しない。

調査項目

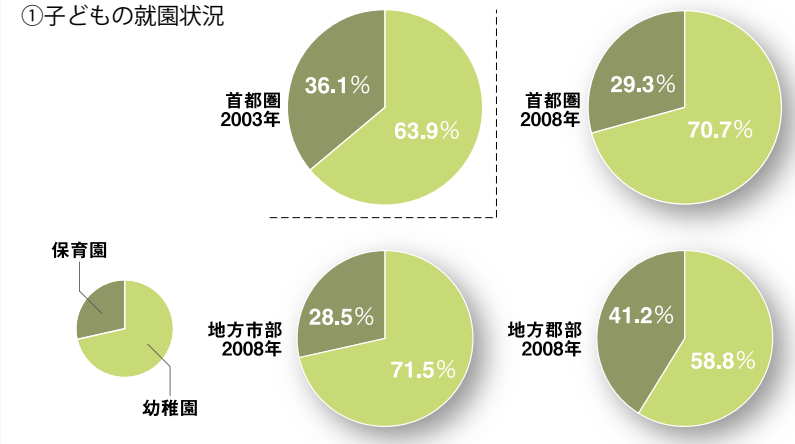
子育ての悩みや気がかり／しつけや教育の情報源／子どもとのかかわり／子どもの日ごろの様子や生活習慣／子どもの生活習慣やしつけへの満足度／家庭でのしつけや教育方針／幼稚園・保育園選択／園で過ごす時間／園に期待すること／園への満足度／希望する進学段階／習い事／教育費／母親自身の生活満足度／配偶者との関係／子育ての楽しさ／子育てやしつけに関する意識
※調査項目は、経年比較が可能なように配慮したが、時代の変化に合わせて、追加・削除などの変更を行っている。

分析の枠組み・サンプル数

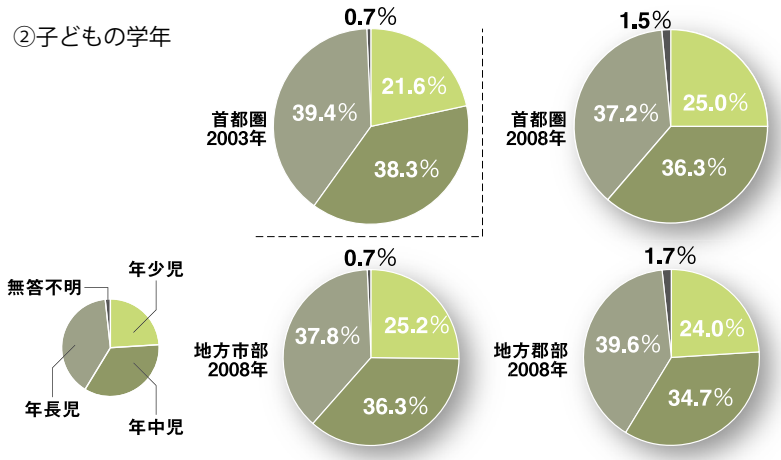


基本属性

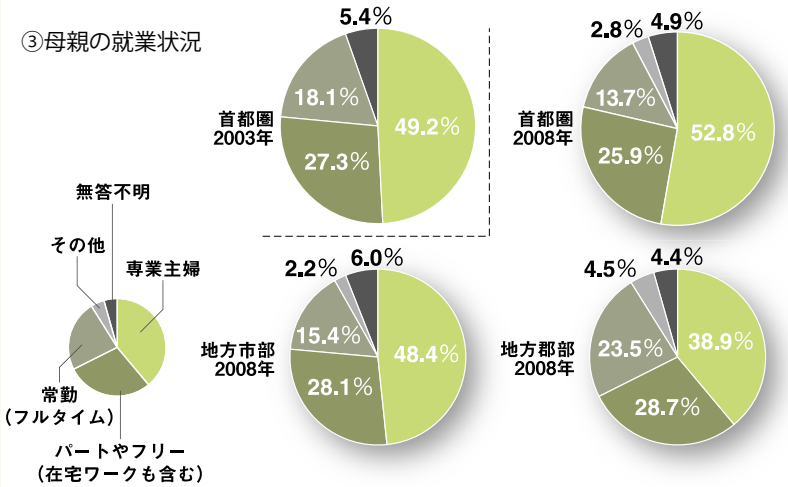
①子どもの就園状況



②子どもの学年



③母親の就業状況



※2003年調査では「その他」の選択肢を設けていない。

目次

page2
調査概要
分析の枠組み・サンプル数

page3
基本属性

1 page4-5
家庭でのしつけや教育方針

2 page6-7
しつけや教育の情報源

3 page8
子育ての悩みや気がかり

4 page9
家庭で子どもと一緒にすること

5 page10
習い事

6 page11
園選びで重視したこと

7 page12
園で過ごす時間

8 page13
子育てやしつけに関する意識

9 page14
配偶者との関係

10 page15
子育ての楽しさ

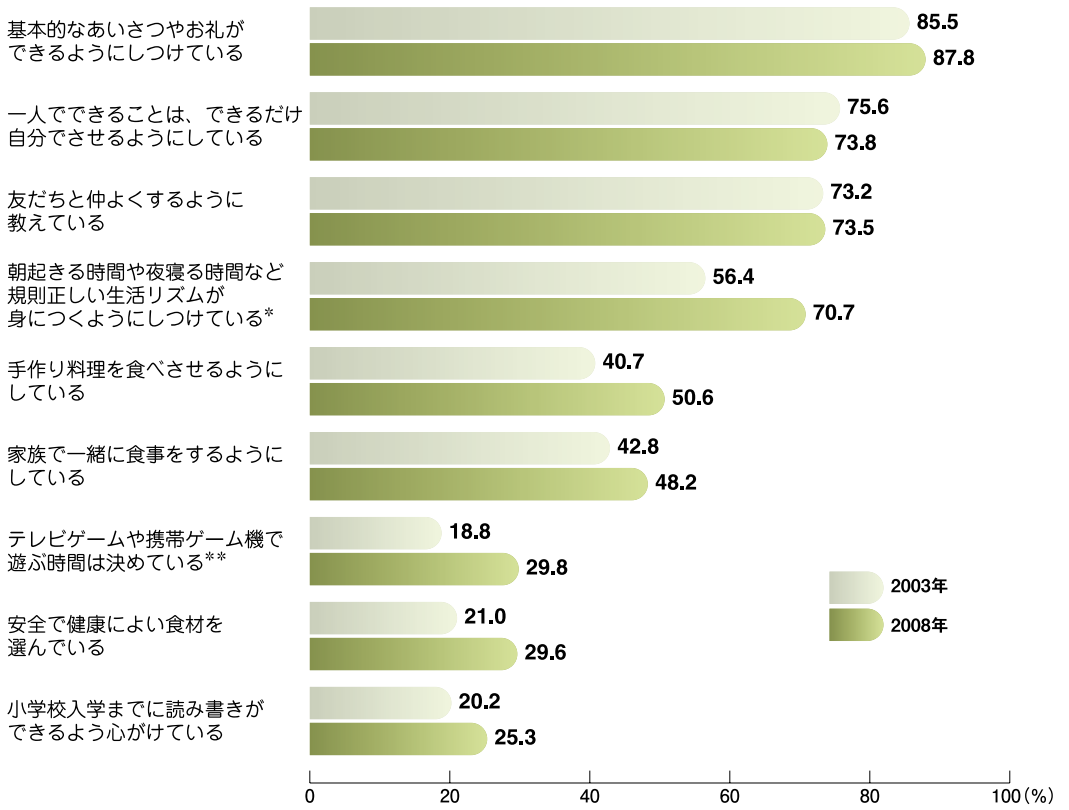
1 家庭でのしつけや教育方針

家庭でのしつけや教育を心がける母親が増えている

家庭でのしつけや教育方針について、５年前と比べて多くの項目で選択率が上昇した。とくに「生活リズムを身につけさせる」「手作り料理を食べさせる」「ゲームで遊ぶ時間は決める」を心がける母親が増加した。

Q あなたのご家庭ではお子様を育てていく上で、とくに心がけていることがありますか。

図１－１　家庭でのしつけや教育方針（経年比較）



注１　複数回答。「その他」を含む19項目のうち、９項目を図示した。
注２　＊は、2003年調査では「朝起きる時間や夜寝る時間など生活リズムは規則正しくしつけている」。
注３　＊＊は、2003年調査では「テレビゲームで遊ぶ時間は決めている」。

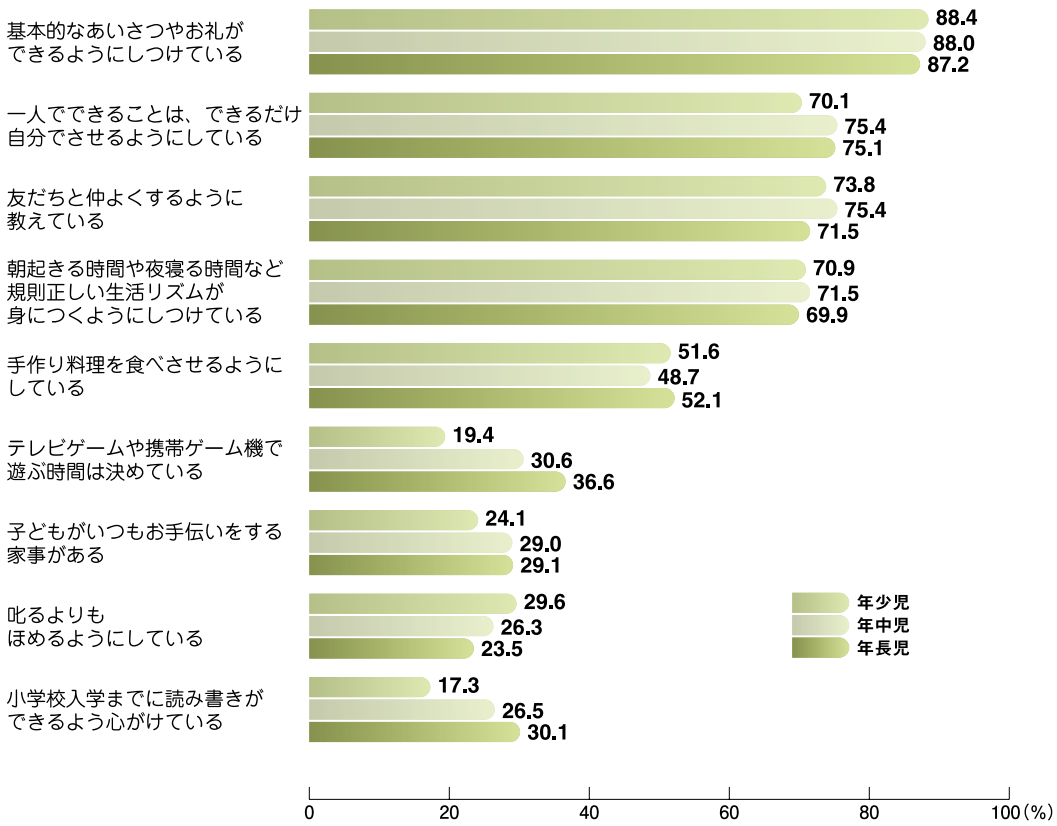
2003年と比べて多くの項目で選択率が増加していることから、家庭でのしつけや教育に熱心な母親が増えたことがわかる。とくに「朝起きる時間や夜寝る時間など規則正しい生活リズムが身につくようにしつけている」「手作り料理を食べさせるようにしている」「テレビゲームや携帯ゲーム機で遊ぶ時間は決めている」は、５年前よりも10ポイント程度増えている。また、「小学校入学までに読み書きができるよう心がけている」も5.1ポイント増加した。家庭で心がけていることでとくに多いものは、「基本的なあいさつやお礼ができるようにしつけている」「一人でできることは、できるだけ自分でさせるようにしている」「友だちと仲よくするように教えている」である。これらの項目は、2003年の調査でも同様に選択率が高かった。

子どもの発達段階によって家庭でのしつけや教育方針は異なる

年中児や年長児ほど多いのは、「一人でできることは自分でさせる」「ゲームで遊ぶ時間は決める」「お手伝いをする家事がある」「読み書きができるよう心がけている」である。一方、年少児ほど多いのは、「叱るよりもほめる」である。

Q あなたのご家庭ではお子様を育てていく上で、とくに心がけていることがありますか。

図１－２　家庭でのしつけや教育方針（首都圏 学年別）



注　複数回答。「その他」を含む19項目のうち、９項目を図示した。

学年別にみると、「基本的なあいさつやお礼ができるようにしつけている」「一人でできることは、できるだけ自分でさせるようにしている」「友だちと仲よくするように教えている」「朝起きる時間や夜寝る時間など規則正しい生活リズムが身につくようにしつけている」という項目は、どの学年でも選択率が高い。年長児になるほど多い項目は、「テレビゲームや携帯ゲーム機で遊ぶ時間は決めている」「小学校入学までに読み書きができるよう心がけている」である。一方、年少児ほど多い項目は、「叱るよりもほめるようにしている」である。このように、子どもの発達段階によって家庭でのしつけや教育方針が異なることがわかる。

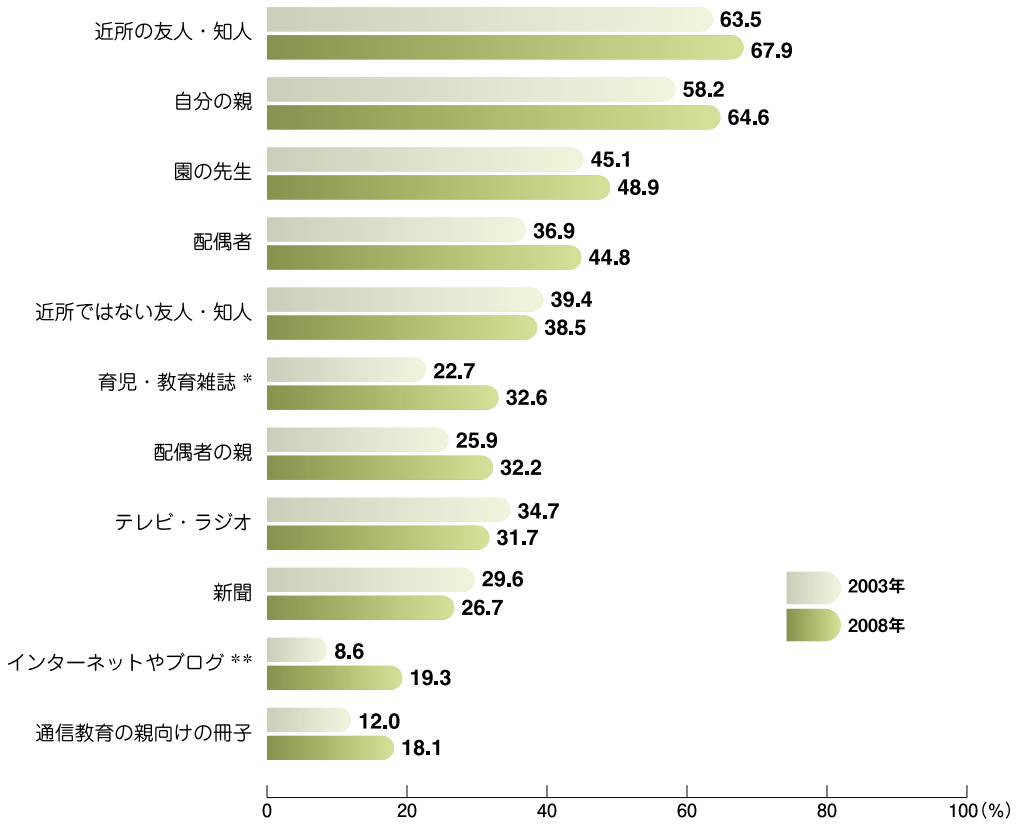
2 しつけや教育の情報源

母親がより多くのルートから情報を入手するようになった

子育てに関する情報源をたずねたところ、５年前と比べて多くの項目で選択率が高まった。とくに「育児・教育雑誌」「インターネットやブログ」は、10ポイント程度上昇した。

Q 現在、あなたは「お子様のしつけや教育」についての情報をどこから（だれから）得ていますか。

図２－１　しつけや教育の情報源（経年比較）



注１　複数回答。「その他」を含む21項目のうち、11項目を図示した。
注２　＊は、2003年調査では「育児雑誌」。
注３　＊＊は、2003年調査では「インターネット」。

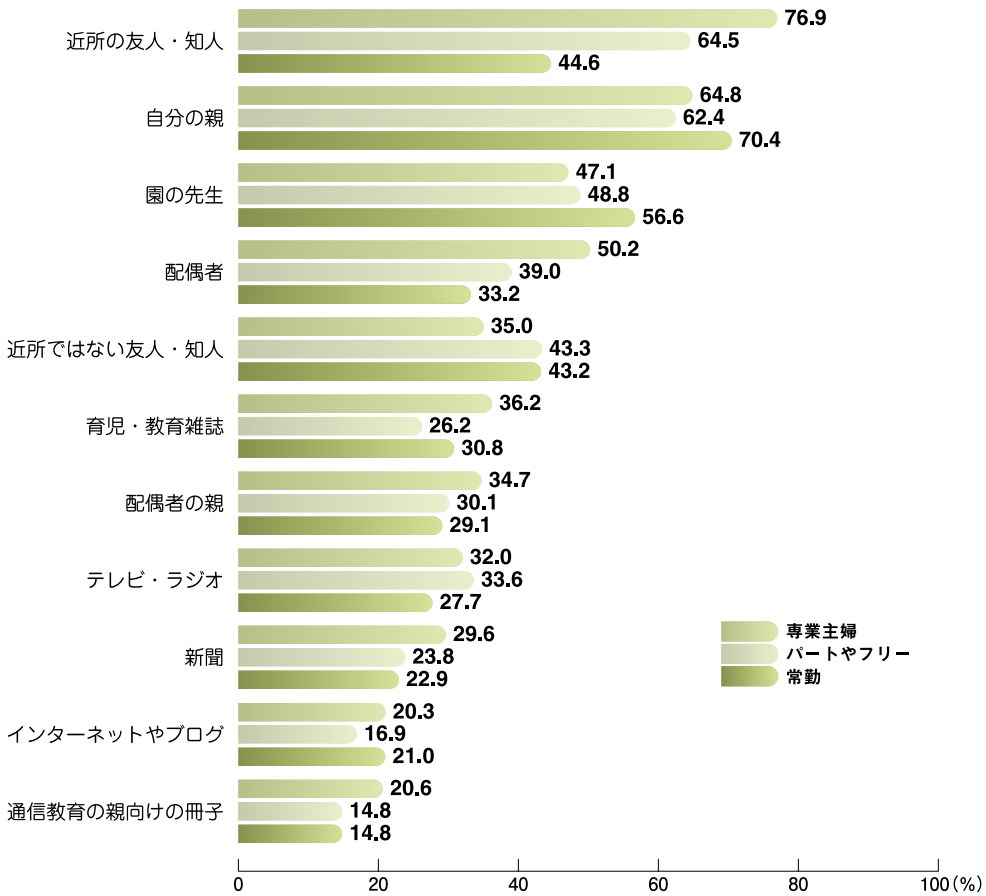
しつけや教育の情報源の変化をみると、５年前と比べて多くの項目で選択率が上昇したことがわかる。その中でも「育児・教育雑誌」「インターネットやブログ」は、10ポイント程度上昇した。また、「自分の親」「配偶者」「配偶者の親」などの比較的身近な人や「通信教育の親向けの冊子」といった情報媒体も６ポイント以上上昇した。ここから、母親たちが５年前よりも多くのルートから情報収集をするようになったことがわかる。一方、「テレビ・ラジオ」「新聞」という回答は、この５年間で３ポイント程度減少している。しつけや教育の情報収集の経路は、変わりつつあるようだ。

専業主婦はより多くの情報源に接している

母親の就業状況別にみると、専業主婦は、多くの項目で選択率が高い傾向がある。その中でも「近所の友人・知人」は４人に３人が選択している。常勤の母親は「自分の親」や「園の先生」を選ぶ割合が高い。

Q 現在、あなたは「お子様のしつけや教育」についての情報をどこから（だれから）得ていますか。

図２－２　しつけや教育の情報源（首都圏 母親就業状況別）



注　複数回答。「その他」を含む21項目のうち、11項目を図示した。

子育ての情報源を母親の就業状況別にみると、専業主婦は、「近所の友人・知人」「配偶者」「育児・教育雑誌」「配偶者の親」「新聞」「通信教育の親向けの冊子」などの項目で、パートやフリー、常勤よりも選択率が高い。ここから専業主婦がより多くのルートから情報収集をしている様子がうかがえる。

一方、パートやフリー、常勤の母親では、「近所ではない友人・知人」の選択率が高いことが特徴である。ここには職場の同僚などが含まれていると考えられる。また、常勤では、「自分の親」「園の先生」の選択率が高い。母親の就業状況によってしつけや教育の情報源は異なることがわかる。

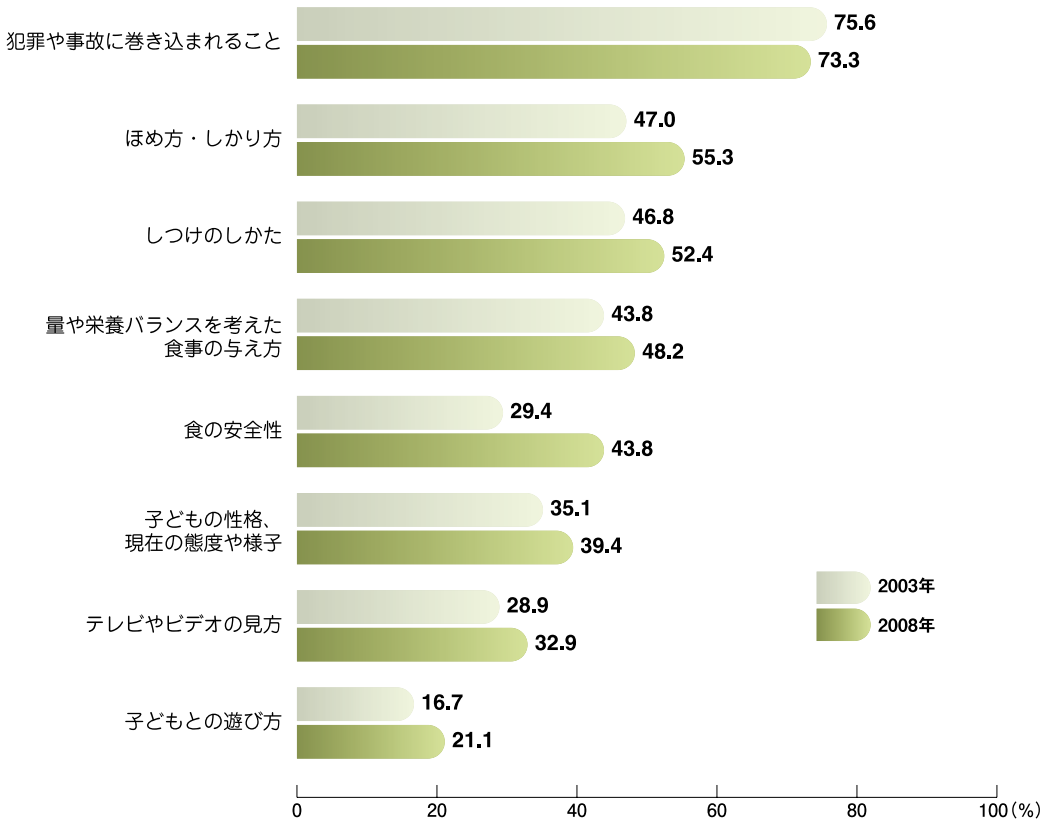
3 子育ての悩みや気がかり

「食の安全性」への不安が高まっている

悩みや気がかりとして「食の安全性」と回答する人が2003年と比べて14.4ポイントも増加した。悩みや気がかりの中でもっとも多いのは、５年前と同様に「犯罪や事故に巻き込まれること」であった。

Q お子様やあなたご自身のことについて、次のような「悩みや気がかり」がありますか。

図３－１　子育ての悩みや気がかり（経年比較）



注　複数回答。「その他」を含む45項目のうち、８項目を図示した。

今回の調査では、５年前と比べて「食の安全性」を選択する割合が14.4ポイントも増加した。近年の食に関するさまざまな事件を受けて、食に対する不安は高まっているようだ。悩みや気がかりの中でもっとも多いのは、５年前と同様に「犯罪や事故に巻き込まれること」であり、７割強の人が選択している。また、「ほめ方・しかり方」「しつけのしかた」は、ともに５ポイント以上増加しており、今回の調査では選択率が５割を超えた。上位３項目は、５年前の調査でも選択率が高いことから、幼児をもつ母親にとって主要な悩みや気がかりであるといえる。また、今回の調査では、全体的に選択率が上昇した項目が多く、母親の悩みや気がかりが増える傾向が示されている。

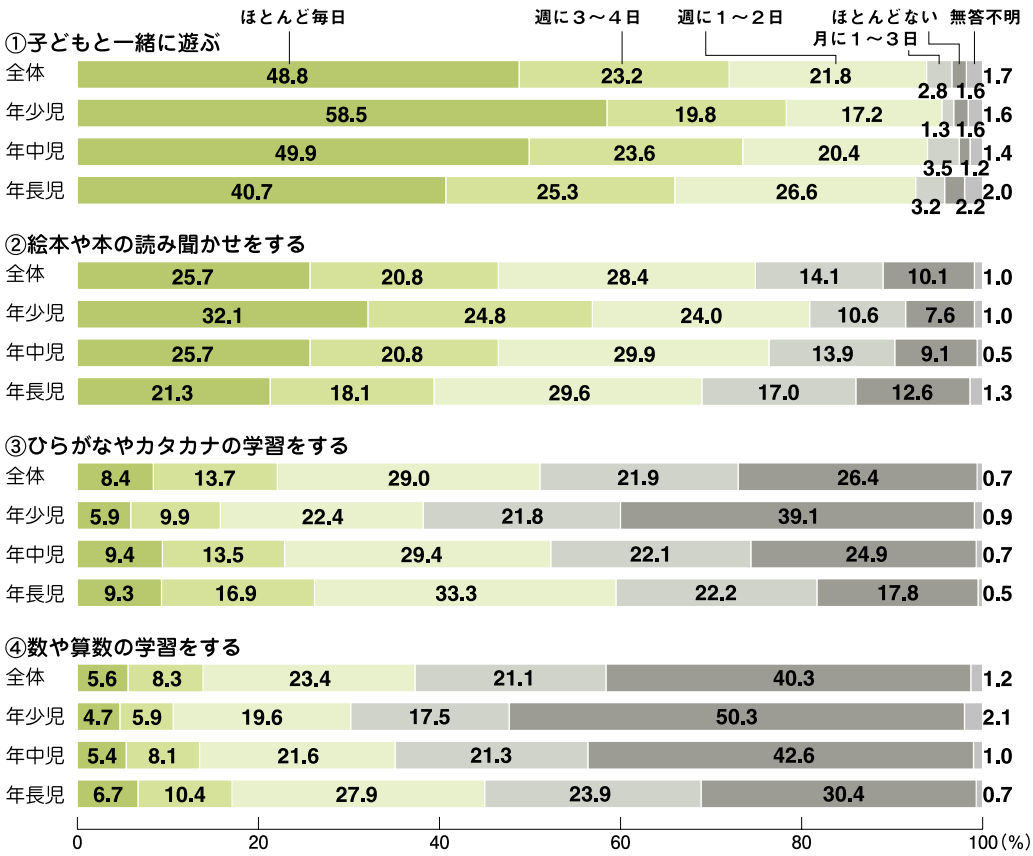
4 家庭で子どもと一緒にすること

学年が上がるにつれ、子どもとの遊び、読み聞かせが減少

学年が上がるにつれ、家庭で「子どもと一緒に遊ぶ」「絵本や本の読み聞かせをする」母親が減少する。一方、子どもと「ひらがなやカタカナの学習をする」「数や算数の学習をする」母親は増加する。

Q あなたのご家庭では、お子様と次のようなことをどれくらいしますか。

図４－１　家庭で子どもと一緒にすること（首都圏 学年別）



注　12項目のうち、４項目を図示した。

「絵本や本の読み聞かせをする」に「ほとんど毎日」と回答した母親は25.7％である。学年による違いをみると、年少児では32.1％であるが、年長児になると21.3％に下がる。「子どもと一緒に遊ぶ」も同様に、学年が上がるとともに「ほとんど毎日」の割合が低下する傾向がみられた。
一方、「ひらがなやカタカナの学習をする」「数や算数の学習をする」について「週に１～２日」以上（「ほとんど毎日」＋「週に３～４日」＋「週に１～２日」）の割合をみると、年少児ではそれぞれ４割弱と３割であるが、年長児では６割弱と４割強に増える。
母親は子どもの発達に合わせて子どもとのかかわり方を変えているようである。

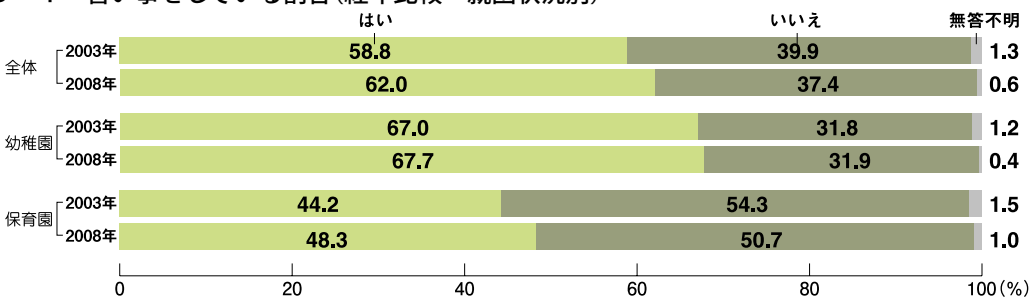
5 習い事

「スポーツクラブ」が増加、「英会話」は減少

習い事をしている子どもの割合は、2003年に比べ保育園で増加した。習い事の内容では、「スポーツクラブ・体操教室」の割合が増加し、「英会話などの語学教室や個人レッスン」の割合は減少した。

Q 現在、お子様は習い事、スポーツクラブ、通信教育などを利用していますか。

図５－１　習い事をしている割合（経年比較・就園状況別）



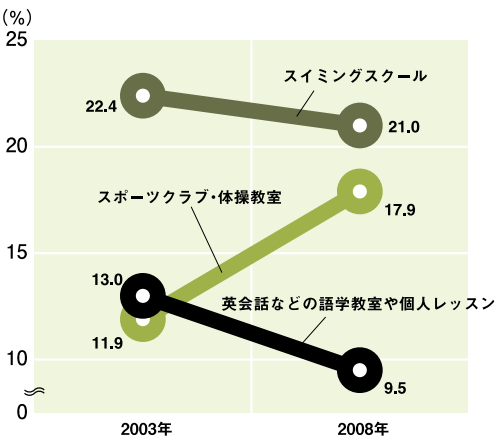
Q お子様はどのような習い事をしていますか。

表５－１　習い事の内容（首都圏 上位10項目）

（%）

	全体
定期的に教材が届く通信教育	25.2
スイミングスクール	21.0
スポーツクラブ・体操教室	17.9
英会話などの語学教室や個人レッスン	9.5
楽器	5.8
幼児向けの音楽教室	5.2
バレエ・リトミック	5.1
計算・書きとりなどのプリント教材教室	3.7
地域のスポーツチーム	3.5
受験が目的ではない幼児教室やプレイルーム	3.0

図５－２　習い事の内容（経年比較）



注１　複数回答（表５－１、図５－２）。
注２　現在、習い事をしていないと回答した母親を含めたすべての母親の回答を母数としている（表５－１、図５－２）。
注３　「その他」を含む17項目のうち、３項目を図示した（図５－２）。

習い事をしている子どもの割合は、2003年と比べてわずかに増加した。就園状況別にみると、幼稚園ではほとんど変化はみられず、保育園では4.1ポイント増加した。
習い事の内容をみると、「定期的に教材が届く通信教育」が最も多く、４人に１人が利用している。

また５年前と比べると、「スイミングスクール」はほとんど変化がないのに対して、「スポーツクラブ・体操教室」の割合は6.0ポイント増加した。一方、「英会話などの語学教室や個人レッスン」は、この５年間で3.5ポイント減少した。

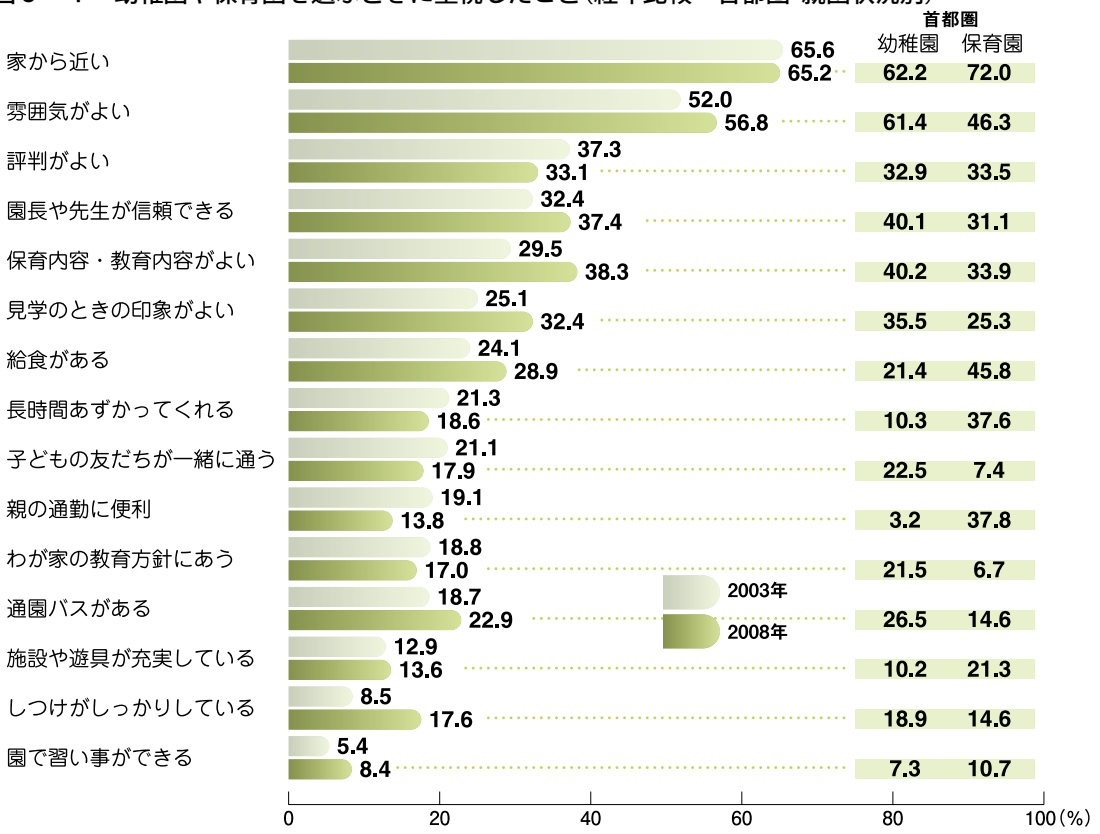
6 園選びで重視したこと

しつけや保育・教育内容を重視する母親が増加

幼稚園・保育園選びで重視したことをたずねたところ、「しつけがしっかりしている」「保育内容・教育内容がよい」「見学のときの印象がよい」「園長や先生が信頼できる」という回答が増加した。幼稚園と保育園に分けても、ほぼ同様の傾向がみられた。

Q お子様の通う幼稚園や保育園を選ぶときにどのようなことを重視しましたか。

図６－１　幼稚園や保育園を選ぶときに重視したこと（経年比較・首都圏 就園状況別）



注１　複数回答。「その他」を含む23項目のうち、15項目を図示した。
注２　「お子様の通う幼稚園や保育園を選ぶときに、どの園にするかを考えましたか」の質問で、「よく考えた」「まあ考えた」と回答した人のみ分析した。

子どもが通っている幼稚園や保育園を選ぶときに重視したことをたずねたところ、2003年に比べて、選択率が増えた項目が多かった。とくに増加幅が大きい項目は「しつけがしっかりしている」（9.1ポイント）、「保育内容・教育内容がよい」（8.8ポイント）、「見学のときの印象がよい」（7.3ポイント）、「園長や先生が信頼できる」（5.0ポイント）である。

就園状況別にみると、幼稚園、保育園ともに、「家から近い」「雰囲気がよい」を重視する傾向がみられた。また、幼稚園と保育園による違いもみられた。幼稚園では保育園と比べて、「通園バスがある」「子どもの友だちが一緒に通う」「わが家の教育方針にあう」などの比率が高い。一方、保育園では「給食がある」「親の通勤に便利」「長時間あずかってくれる」の比率が高い。

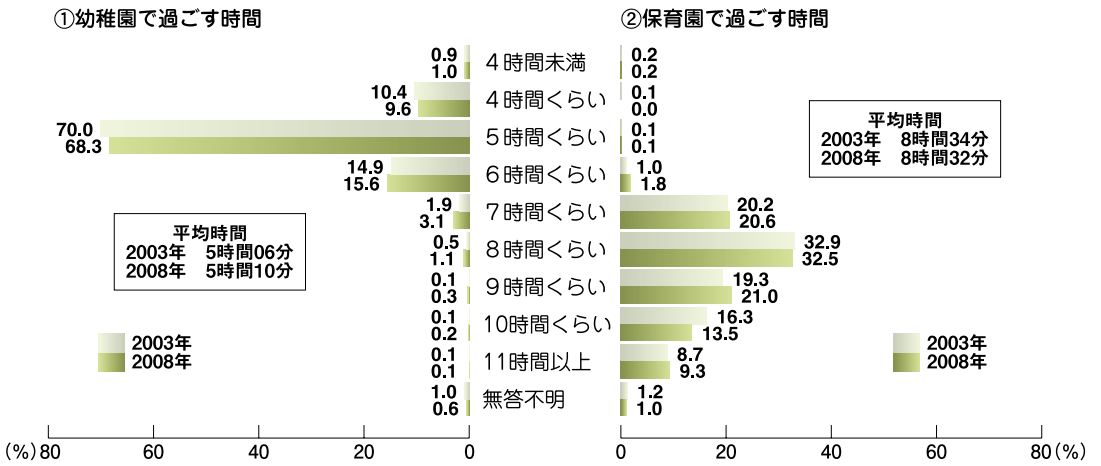
7 園で過ごす時間

地域によって園で過ごす時間が異なる

首都圏と地方市部・地方郡部を比べると、幼稚園で過ごす時間は地方市部・地方郡部のほうが長いが、保育園で過ごす時間は首都圏のほうが長い。

Q お子様は、１日のうちどれくらいの時間を幼稚園・保育園で過ごしますか。

図７－１　幼稚園や保育園で過ごす時間（経年比較）



注１　「11時間以上」は「11時間くらい」「12時間くらい」「12時間より長い」の合計。
注２　平均時間は、「４時間未満」を３時間、「４時間くらい」を４時間、「12時間より長い」を13時間のように置き換えて、無答不明を除いて算出した。

表７－１　園で過ごす平均時間（地域別・就園状況別）

	幼稚園			保育園		
	首都圏	地方市部	地方郡部	首都圏	地方市部	地方郡部
平均時間	5時間10分	5時間38分	5時間44分	8時間32分	8時間12分	7時間54分

注　平均時間は、「４時間未満」を３時間、「４時間くらい」を４時間、「12時間より長い」を13時間のように置き換えて、無答不明を除いて算出した。

首都圏のデータをもとに子どもが園で過ごす時間を経年比較したところ、幼稚園も保育園も2003年からあまり変化していない。
幼稚園で過ごす時間の平均を地域別にみると、首都圏が５時間10分、地方市部が５時間38分、地方郡部が５時間44分である。これに対して、保育園で過ごす時間の平均は、首都圏が８時間32分、地方市部が８時間12分、地方郡部が７時間54分である。保育園は幼稚園より園で過ごす時間が長い。このことはどの地域にも共通している。
しかし、首都圏と比べて、地方市部・地方郡部は幼稚園で過ごす時間が長く、保育園で過ごす時間が短い。地方は首都圏のように幼稚園と保育園の役割が分かれていないためだと考えられる。

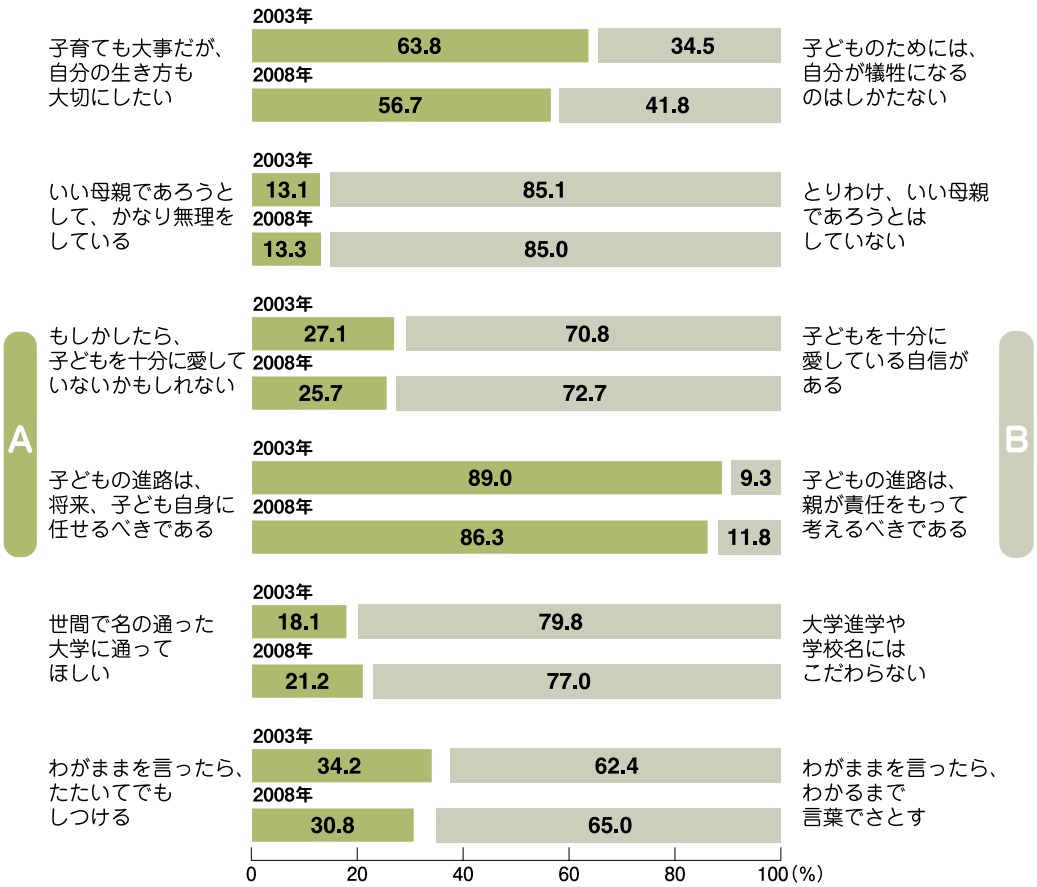
8 子育てやしつけに関する意識

「子育ても大事だが、自分の生き方も大切にしたい」が減少

2003年に比べて、「子育ても大事だが、自分の生き方も大切にしたい」と回答する母親が減少した（2003年63.8%→2008年56.7%）。

Q AとBの子育てに関する２つの意見のうち、あなたのお気持ちに近いほうはどちらですか。

図８－１　子育てやしつけに関する意識（経年比較）



注1　無答不明があるため、ＡとＢの数値を合計しても100%にはならない。
注2　10対の項目のうち、６対の項目を図示した。

この５年間で、「子育ても大事だが、自分の生き方も大切にしたい」と考えている母親が7.1ポイント減少していることから、母親の自分の生き方より子育てのほうを優先する様子がうかがえる。子どものしつけについて、「わがままを言ったら、わかるまで言葉でさとす」（2003年62.4%→2008年65.0%）、子どもの将来について、「世間で名の通った大学に通ってほしい」（2003年18.1%→2008年21.2%）と思っている母親が微増しており、全体的に子育てや子どもの教育に熱心な母親が増えている。

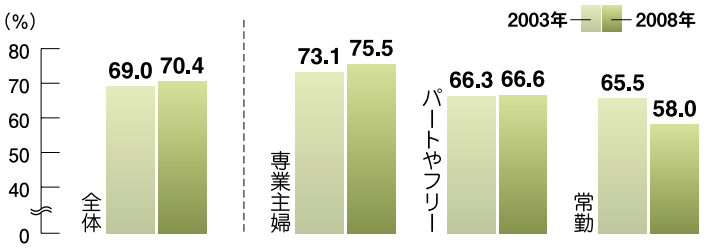
9 配偶者との関係

配偶者が子育てに協力的だと認識している母親が増加

夫婦でお互いの関心事について話し合うかという質問では、「話し合う」が７割、配偶者が自分自身のことを理解しているかという質問では、「理解している」が６割である。配偶者が子育てに協力的だと考えている母親は75.3%で、2003年に比べて5.2ポイント上昇している。

Q 1) ふだんからご夫婦でお互いの関心事について話し合うことがありますか。

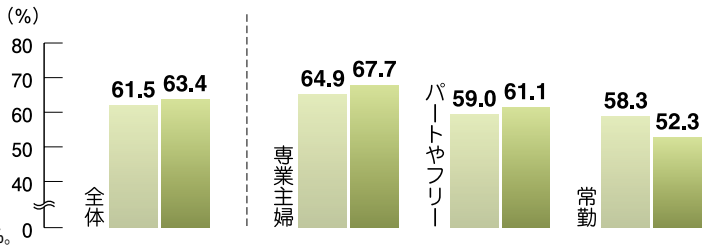
図９－１
夫婦でお互いの関心事について話し合うこと
（経年比較・母親就業状況別）



注　「よく話し合う」+「まあ話し合う」の%。

Q 2) あなたの配偶者は、あなたが関心をもっていることや悩みなど「現在のあなたご自身」を理解してくれていると思いますか。

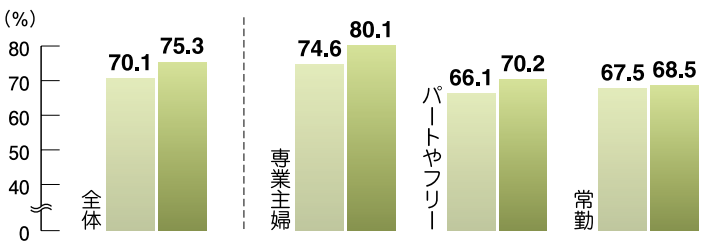
図９－２
配偶者の理解度
（経年比較・母親就業状況別）



注　「よく理解している」+「まあ理解している」の%。

Q 3) あなたの配偶者は、子育てに協力的だと思いますか。

図９－３
配偶者の子育てへの協力度
（経年比較・母親就業状況別）



注　「とても協力的」+「まあ協力的」の%。

配偶者が子育てに「協力的」（「とても協力的」+「まあ協力的」、以下同様）と回答した母親は、全体で2003年70.1%→2008年75.3%と、5.2ポイント増加している。
夫婦でお互いの関心事について話し合うか、配偶者が自分自身のことを理解しているかという２項目の質問では、全体値の変化はあまりみられない。しかし、母親の就業状況別にみると、常勤の母親はそれぞれ7.5ポイント、6.0ポイント減少している。専業主婦に比べて、常勤の母親は配偶者とのコミュニケーションが少なくなっているようである。また配偶者が子育てに協力的かどうかについては、常勤の母親の数値が横ばいで７割弱である一方、専業主婦の８割は配偶者が子育てに「協力的」であると認識しており、2003年に比べて5.5ポイント増加した。

10 子育ての楽しさ

子育てが「とても楽しい」と感じている母親が増加

５年前と比べて、子育てが「とても楽しい」との回答比率が増加した。また配偶者が「子育てに協力的」だと感じている母親や「自分は子育てに向いている」と思っている母親では、子育てが「楽しい」と回答した比率が高い。

Q あなたは毎日の子育てが楽しいですか。

図10－１　子育ての楽しさ（経年比較）

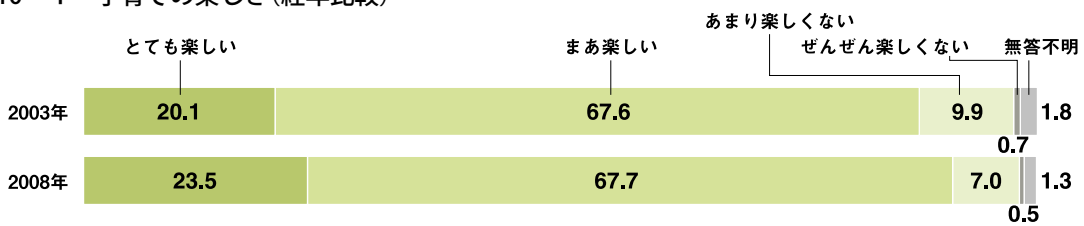
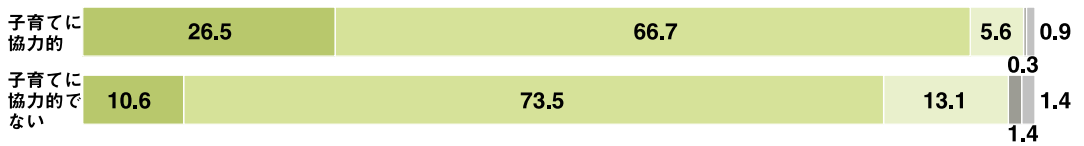
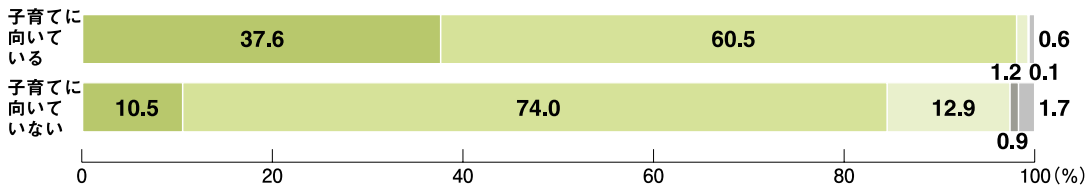


図10－２　子育ての楽しさ（首都圏 配偶者の子育てへの協力度別）



注　「あなたの配偶者は、子育てに協力的だと思いますか」の質問で、「とても協力的」「まあ協力的」の回答を「子育てに協力的」とし、「あまり協力的でない」「ぜんぜん協力的でない」との回答を「子育てに協力的でない」とした。

図10－３　子育ての楽しさ（首都圏 子育ての向き不向き別）



注　「子育ての向き不向き」は、子育てやしつけに関する意識の質問項目「Ａ.自分は子育てに向いている」「Ｂ.自分は子育てに向いていない」を用いた。

子育てが「とても楽しい」と回答した母親は、2003年の20.1%より3.4ポイント上昇し、23.5%になった。「楽しい」（「とても楽しい」＋「まあ楽しい」）の比率は87.7%から91.2%になり、９割を超えた。

配偶者が子育てに協力的かどうかで楽しさが違うかをみたところ、「とても楽しい」の比率は「子育てに協力的」と認識している母親では26.5%、「子育てに協力的でない」と感じている母親では10.6%であった。また、「自分は子育てに向いている」と感じている母親では、子育てが「とても楽しい」という回答が37.6%で、「自分は子育てに向いていない」という母親では10.5%であった。配偶者が子育てに協力するかどうかや母親自身の子育て意識が、子育ての楽しさに影響を与えるといえよう。

第3回子育て生活基本調査（幼児版）

調査企画・分析メンバー

山岡テイ　（情報教育研究所所長）
樋田大二郎　（青山学院大学教授）
木村敬子　（聖徳大学教授）
櫻井茂男　（筑波大学大学院教授）
諸田裕子　（元東京大学産学官連携研究員）

Benesse教育研究開発センター
木村治生　（Benesse教育研究開発センター教育調査室室長）
邵　勤風　（Benesse教育研究開発センター研究員）
西村祐美　（Benesse教育研究開発センター研究員）

ベネッセ次世代育成研究所
後藤憲子　（ベネッセ次世代育成研究所主任研究員）
高岡純子　（ベネッセ次世代育成研究所主任研究員）
田村徳子　（ベネッセ次世代育成研究所研究員）

※所属・肩書きは、2009年３月時点のものです。

本調査の詳細な報告は『第３回子育て生活基本調査報告書（幼児版）』（170頁程度、頒価1,000円）にて行っております。報告書をご希望の方は、Benesse教育研究開発センターのWEBサイトの「報告書の申し込み」より、必要事項をご入力ください。なおこの報告書は直販のみで、書店ではお買い求めいただけません。直接、Benesse教育研究開発センターにお申し込みください。

Benesse教育研究開発センターで実施している各種調査結果は、
http://benesse.jp/berd/ または ベネッセ　研究 検索 で検索できます。

「第3回子育て生活基本調査（幼児版）」速報版
発行日：2009年5月11日　発行人：新井 健一　編集人：木村 治生
発行所：（株）ベネッセコーポレーション　Benesse教育研究開発センター

8BB037　●この冊子は、再生紙を使用しております。